

今日の説教のポイント<創世記 26 章>

①考えられないイサクの誤った行動。しかし聖書に3度も出て来る！

イサクが妻のリベカを妹と偽る出来事が記されています。飢饉の中で寄留した地で不安に駆られて行ったことですが、誰かがリベカを見染めて取り返しのつかないことになりかねない行為でした。しかしもっと驚くことは、これとほぼ同じ出来事がアブラハムについてすでに2度記されているということです(12, 20章)。どういうことでしょうか？

②神様は、「それでも生きなさい、生きていい」と言われるお方！

聖書に3度同じような記事が載るといことは、本当にそのような事が起こっても不思議ではなかったのだろうと考えさせられます。アブラハムやイサクともあろう信仰者が本当にそんなことをしたのだろうかと思うかもしれません。しかしむしろ、私たちの人生には、苦い思い出(犯した罪に対する後悔が消えないような)が一つや二つはあること、しかし、それにもかかわらず神様は、「生きなさい、生きていいのですよ」と言って下さっているのだということ、ここから聞き取ることができるのではないのでしょうか。それは、命の危険の中で体を差し出したかもしれないリベカ(あるいはサラ)にも語りかけられている神様の言葉なのです。

③主の祝福を受けた人がイサクのテーマ しかし苦難続きの生涯！

「神様の祝福を受けた人」がイサクのテーマです(3, 12, 24, 29)。しかし寄留先でねたまれ、追い出され、井戸争いで苦労したあげく、やっと定住地を手に入れて平安を得ました(22, 31)。これでどこが神様の祝福を受けた人と言えるのかと思うかもしれません。しかし最後には、イサクを苦しめた当の本人アビメレクが、「主があなたと共におられることがよく分かった。あなたは確かに、主に祝福された方です」と言いに来たのです(28-29)。なぜでしょうか？

④人はどんな姿に「主と共におられる」ことを見出すのか？

26章全体を読むと、イサクは争わずにむしろ身を引いて平和を確保する人であったことが分かります。ここに信仰者が取るべき平和共存への道筋が示されているのではないのでしょうか！ その姿が「主があなたと共におられる」と人の心を動かしたことにも注目です。